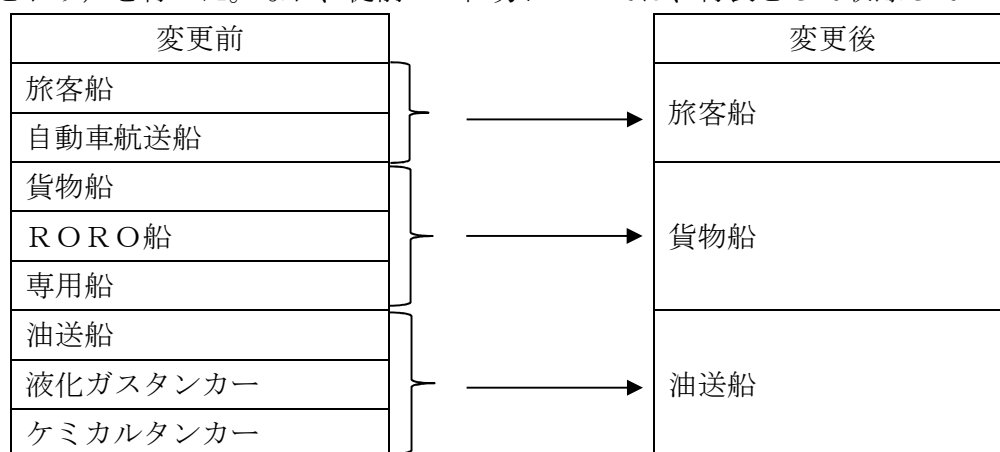


標本設計及び表章の変更について

本報告書における一般船舶調査（第1号調査）については、平成30年6月に実施した調査より、「公的統計の整備に関する基本的な計画」等での指摘を踏まえ、利活用面や結果精度を踏まえつつ、標本設計（階層の統合）の見直しを実施し、それに伴い平成30年6月分（船員労働統計 NO.210）の公表より表章区分も変更しているため、使用にあたっては留意されたい。

用途について

従前の8区分（旅客船、貨物船、RORO船、専用船、油送船、自動車航送船、液化ガスタンカー、ケミカルタンカー）から、3区分（旅客船、貨物船、油送船）へと変更（対比表は下図のとおり）を行った。なお、従前の8区分については、付表として収録している。



トン数階層について

内航船については、従前の8区分（20～99トン、100～499トン、500～699トン、700～999トン、1,000～1,599トン、1,600～1,999トン、2,000～2,999トン、3,000トン以上）から、5区分（20～199トン、200～499トン、500～699トン、700～1,599トン、1,600トン以上）へと、外航船については、従前の5区分（20～2,999トン、3,000～4,999トン、5,000～9,999トン、10,000～29,999トン、30,000以上）から2区分（20～4,999トン、5,000トン以上）へとそれぞれ変更を行った。

【内航船舶】

【外航船舶】

変更前		変更後		変更前		変更後
20～99	→	20～199	→	20～2,999	→	20～4,999
100～499		200～499		3,000～4,999		5,000～
500～699		500～699		5,000～9,999		
700～999		700～1,599		10,000～29,999		
1,000～1,599		1,600～		30,000～		
1,600～1,999						
2,000～2,999						
3,000～						